

## 英・EUの自由貿易協定に関する協議の行方は～EU首脳会議

2020年10月12日(月)

EU離脱(ブレグジット)の移行期間の期限を年末に控え、英国とEUとの自由貿易協定(FTA)に関する協議が続いています。手続き上の問題もあり、事実上のデッドラインは10月末といわれていましたが、英国のジョンソン首相は来週15日、16日に行われるEU首脳会議(EUサミット)を期限とし、15日までにまとまらなかった場合は、FTAなしでの離脱を決断すると先月表明しました。

EU側は15日を期限とするという英首相発言に、交渉に圧力をかけることを意図したものと反発。同期限にこだわらず、10月後半も交渉を継続する姿勢を示しています。

交渉の現場サイドでは交渉継続に前向きという報道も出ており、EU側の交渉担当者であるバルニエEU首席交渉官は、今月7日にEU加盟各国の大使に対して、英国が15日で交渉を打ち切るとは見込んでいないという見解を示しました。ただ、ジョンソン首相のこれまでの姿勢を考えると、交渉打ち切りで踏み切ってくる可能性は十分にあるだけに、大きな区切りとしてEU首脳会議が注目されています。

通商協議の進展に関しては、3日に行われたジョンソン首相と、EUのフォンデアライエン欧州委員長の電話協議後の共同声明で、ここ数週間で進展があったとの評価が示されました。

ただ、当初から大きな相違点として指摘されている英海域での漁業権問題、国家補助金などを巡る公正な競争環境の確保に関する問題、紛争処理を巡るガバナンスの問題などについては、大きな溝が残っていると指摘されました。

先月までの一部報道ではこれらの問題について英国側で譲歩の用意が見られるというものもありましたが、英国とEUとのトップ協議で依然として溝が深いことが示された形で、交渉がまとまるかどうかは微妙なところとなっています。

かなり重要な問題だけに、期限ぎりぎりまで厳しい交渉が続くのは致し方ないところ。FTAのない離脱、いわゆるハードブレグジットは英国、EU双方にとって大きなマイナス。

ましてや今は新型コロナウイルスの感染拡大が英国やEUで依然深刻となっており、経済的なダメージも大きい中だけに、ここにハードブレグジットショックが加わると相当厳しい状況が生じるだけに、最後にはまとまるという楽観論が大勢です。

ただ、ジョンソン首相の性格やこれまでの姿勢を考えると、強硬な打ち切りを否定することはできないだけに、慎重に状況を見守りたいところです。

FTA交渉が15日までにまとまればポンド買い、ユーロも対ポンドではともかく、対ドルや対円では買いの材料となりそう。もっとも主要なシナリオとなる、ある程度交渉が進展していることを理由に15日以降の交渉を継続することで合意という形で、現状維持もしくはある程度のポンド買い。ハードブレグジット決定でポンド売りが見込まれるところとなっています。

米国の材料としては15日に予定されている第二回米大統領候補者討論会が注目されていました。しかし、主催する大統領候補者討論会委員会(CPD)は、トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染したことを受けて、オンライン形式による開催に変更すると8日に発表。

トランプ大統領は、それは討論会ではないと拒否する姿勢を示しました。

トランプ大統領は代わって第3回目の日程である22日に加え、29日にも討論会を実施することを提案しましたが、バイデン氏は29日の討論会を拒否しました。

CPDは9日になって15日の開催中止を正式に発表しています。3回予定されていた大統領候補者討論会は2回で終了となります。

現在選挙戦で劣勢に立つトランプ陣営としては逆転する材料の一つを失った形でかなり痛手とみられています。世論調査動向でもバイデン氏のリードがやや広がりつつあり、市場はバイデン氏の勝利を織り込みつつあります。

当初はトランプ減税の廃止や、富裕層への増税などを主張するバイデン氏の勝利は株安からのリスク警戒という見通しが広がっていましたが、大統領選に加え、上院・下院両選挙でも民主党が勝利するトリプルブルー(青は民主党のシンボルカラー)の可能性が広がっており、この場合は民主党が提案している大規模な追加経済対策の実現に向けた動きが進むとの期待から、それほど大きな株安にはならないという見方が出てきています。

11月3日の大統領選本番までの動きに要注意です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様自身の判断と責任によつてなされ、この情報に基づいて被つたいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド